

被災地応援しています

「平和と文化のまち四街道」をめざすアオギリの会
世話人 比留間克子さん

四街道駅前、毎月11日に街頭募金活動を実施
新鮮な野菜を南相馬市の仮設住宅に届けています

震災直後、福島県南相馬市では、放射能汚染の危惧とガソリン不足からトラックによる物流が届かず学校給食の食材が不足していることを知りました。2011年5月、現地を知ろうと会員に呼びかけてカンパを募り、沢山の野菜を車に積んで学校給食センターに届けました。当時、幼、小、中学校では、まさに炊き出しメニューになっていて、新鮮なトマトをととても喜んでいただきました。1年半近く続けましたが、学校給食体制が整ったことで、届先を仮設住宅に変更しました。

自分たちの力量を考え、大規模の仮設住宅でなく高齢者が多く、町から離れ買い物に不便と思われる場所に決め、今日までずっと同じ仮設住宅に届けています。今年の6月22日で55回目となりました。初めは、挨拶程度で野菜を届けていましたが、今では、仮設での生活の寂しさ、変わらぬ苦しさなど胸中を打ち明けていただき、かえって勇気をいただき多くのことを学んでいます。私たちは、あまりにも微力でお話を伺うのみですが、ただ、ここに暮らす方が一人もいなくなるまで野菜を届け続けようと思っています。宅配で届けることは簡単で負担が少ないのですが、手から手へ、お顔を見ながら渡したいというのがメンバーの一致した思いで、片道5～6時間かかりますが日帰り車で走らせています。

募金して下さる方の中には、中・高校生の学生さん、千葉に避難されている当事者の方、毎回募金して下さる方など様々です。「3.11を忘れない」のメッセージを込めて、毎月11日に街頭募金を行っています。



右：阿部さん 左：比留間さん



駅前カンパの様子



給食センターに野菜を届ける



仮設住宅の皆さんと餅つき大会

ふるさとふくしま帰還支援事業

『福島を知る』 どなたでもご参加いただけます

I、「福島を知る」を聞く：学習会

日時：平成27年9月28日(月)13:00～15:00

会場：千葉ビジネス支援センター 第3会議室

内容：現在の除染状況や復興状況について、専門家・役場担当職員より解説いただきます

「最近、ニュースでも聞かないけど、
福島の除染はどうなっているの？
復興はどこまで進んでいるの？」

II、「福島を知る」を見る：1泊2日バス旅行

日時：平成27年10月頃実施予定 参加費：5000円

行程予定：千葉出発⇒温泉地で1泊⇒被災地を訪問⇒復興公営住宅見学(実際に暮らしている方と交流予定)

「復興公営住宅って、住みやすいの？」

III、「福島を知る」を話す：振り返り(交流会)

日時：平成27年12月開催予定 会場：千葉市内

内容：「福島を知る」参加者を中心に交流会開催。感じたことを共有し、被災地・被災者の状況について、復興について考える場の提供。

「震災前の家に帰れるのか？」

主催：NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 問合せ：043-303-1688(担当：風間・鍋嶋)



発行：特定非営利活動法人
ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
連絡先：〒261-0011 千葉市美浜区真砂 5-21-12
☎043-303-1688
E-mail npo-club@par.odn.ne.jp
発行部数：2,500部



代表：森川マツ子さん
(浪江町から避難)

まちづくりNPO新町なみえ理事、
浪江町商工会会長、
原田雄一さんの講演：「浪江町の現状」

H27. 7/3 「ともに生きる会」発会式(松戸市) 被災者20名、支援者33名の参加で開催
「ふるさとの想いを大切に、助け合って共に生きていきたい」

わたし千葉で元気になっています！

浪江町 山田琴子さん (現：千葉県習志野市)

習志野市の集合住宅の10階に息子夫婦と三人で暮らしています。ここが9回目の避難先になります。この住宅では、軽い体操とおしゃべりを楽しむ老人の会があり、引っ越して来てすぐにお誘いをいただき参加しています。一人でいると涙することもありますが。初めての土地でお誘いいただき、幸せなことに嬉しく思いました。習志野で支援をしてくださっている団体の方が、老人会の方に事前に声を掛けてくれたようで、感謝しています。また、ここに来てから、米子さんというお茶飲み友達ができました。お互い散歩の時に声を掛けあったのがキッカケでした。相性が合ったんですね。今では兄弟家族以上の付き合いになり、留守番も頼まれる仲になりました(笑)。この歳になって、なんでも話せて笑い合える友人が出来たことに、救われた思いです。



今でも針をもって袋物を作ります。

息子から「ここが最後の住かになるだろう」と言われた時は、寂しく感じました。私には、子どもが3人、孫が6人、ひ孫が12人います。浪江にいた時は、夏のお盆にはみんなが集まって賑やかだったことを思い出します。もう戻れないのかとあきらめた気持ちもありますが、浪江に帰りたいかと聞かれば、…帰りたいですよ。隠居部屋も作ってありましたからね。でも今は、若い人たちが健康でいられることだけ願っています。

情報紙「縁 joy」は、福島県ふるさと・きずな維持・再生支援事業として
東日本大震災で被災し、千葉県内で暮らす皆様の不安や悲しみが少しでも軽減されるよう
そして被災者に対する理解が広まることを願って作成、発行しています。